

東京都知事 殿

〔設置者の名称〕 学校法人伊東学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 伊東 政信

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ 専門学校)
大学等の所在地	東京都千代田区神田小川町 3-26-1
学長又は校長の氏名	(校 長) 伊東 政信
設置者の名称	学校法人伊東学園
設置者の主たる事務所の所在地	埼玉県行田市大字埼玉 4758 番地 1
設置者の代表者の氏名	(理事長) 伊東 政信
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/10/t_tf_application.pdf

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。 この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知していません。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	理事長 伊東 政信	03-3292-0951	info@ito.ac.jp
第2号の1	教務部 水本 寿美江	03-3292-0954	tokyo-th@ito.ac.jp
第2号の2	同上	同上	同上
第2号の3	同上	同上	同上
第2号の4	同上	同上	同上

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事(役員)名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	245,035,825円	264,125,793円	△19,089,968円
申請2年度前の決算	258,717,113円	256,503,249円	2,213,864円
申請3年度前の決算	228,162,065円	253,329,402円	△25,167,337円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	71,555,704円	195,730,971円	△124,175,267円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	80人	75人	93%
前年度	80人	65人	81%
前々年度	80人	78人	97%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
有価証券	関連会社	5,500,000円
現金預金	普通預金、小口現金	66,055,704円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
長期借入金	テクノ・ホルティ園芸専門学校・東京テクノ・ホルティ園芸 専門学校における校舎改修費用、備品購入費用	121,112,000円
短期借入金	運転資金	73,000,000円
未払金	テクノ・ホルティ園芸専門学校設備管理費、3月分教材費	1,618,971円

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	フラワービジネス学科 ブライダルフラワーコース (2年制)	夜・通信	1,953 時間	80×2=160 時間	
	フラワービジネス学科 フラワーデザインコース (2年制)	夜・通信	1,953 時間	80×2=160 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>HPにて授業科目一覧を公開 「情報公開の入口ページ」https://www.ito.ac.jp/about/#a_info</p> <p>授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。 https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_curriculum_r04.pdf</p>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公表 「情報公開の入口ページ」 https://www.ito.ac.jp/about/#a_info https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/boardstatement_r03.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元 弁護士	令和2年12月17日～令和4年12月16日	法令遵守
非常勤	専門学校 元校長 業界団体 元事務局長	令和2年12月17日～令和4年12月16日	学校運営・教育内容 の企画・立案
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) (フラワービジネス学科フラワーデザインコース(2年制)、ブライダルフラワーコース(2年制))</p> <p>【作成について】 継続して行われる科目については、前年度のフィードバック等をもとに、新規で開講する科目については、担当教員だけでなく、外部の意見も取り入れながら専任教員や担当教員で十分な検討を行い、素案を作成する。その上で、各科目間との関連や、教育課程編成委員会での外部からの意見、時代の趨勢を考慮する他、各就職分野で必要とされる実践的な内容も取り入れながら調整し、決定する。</p> <p>【時期について】 翌年度の授業計画は、前年度末(3月末)までに担当教員が作成し、年度当初にホームページや閲覧で公表するとともに、学生に配布する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>HPにて公表 「情報公開の入口ページ」https://www.ito.ac.jp/about/#a_info</p> <p>https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_syllabus_r04_bf.pdf</p> <p>https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_syllabus_r04_fd.pdf</p> <p>https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_syllabus_r04_sikaku.pdf</p> <p>https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_syllabus_r04_sentaku.pdf</p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>試験（授業内評価）は、各科目の到達度評価を測るものとして授業担当者の責任において授業内で適宜実施する。試験の形態は、筆記試験・実技試験を主たるものとし、必要に応じてレポート・論文などにより行い、単独もしくは複数の方法や授業態度などから総合的に判断し、各科目の授業終了時に授業担当者が評価する。その結果最低合格点の60点に満たない場合には再試験を行うが、再試験でも60点に満たない場合には再履修となる。点数と評価の関係は、100点～80点を優、79点～70点を良、69点～60点を可、60点未満を不可とする。なお、可（60点）以上の評価で単位修得となる。また、学生は評価を受けるには科目ごとの授業時数の3分の2の出席がなければならない。出席時数が3分の2に満たない場合には補講となる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>試験での点数を100点～80点を優、79点～70点を良、69点～60点を可、60点未満を不可と評価し、GPAを算出する。なお、GPは優を3、良を2、可を1、不可を0とする。科目ごとにGPにその科目の単位数をかけたものを出し、履修した科目分を合計する。その数値を履修した科目の総単位数で割り、GPAを算出する。その数値により全学生の成績分布や各学生の相対順位を把握する。</p> <p>但し、選択科目の履修時間数を2年間で300時間以上と定めていることから、個々によって年度ごとの取得時間数に違いが生じるため、成績評価に公平性を期すために必修科目のみでGPAを算出している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>HPにて公表 「情報公開の入口ページ」 https://www.ito.ac.jp/about/#a_info</p> <p>「情報公開資料」内11ページ参照 https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_disclosure_r04.pdf</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、園芸・フラワー等の分野で活躍できる人材を養成すべく、植物に関する基本的な知識、技術をベースに、コースごとでの専門性の高い知識、技術、またビジネスマナーや社会人基礎力についても身に付けさせる。それらについては授業科目ごとの筆記、実技、課題などの試験によって理解度および習熟度をはかる。科目ごとに可（60点）以上の評価で単位修得となる。</p> <p>卒業は2年次末に行われる卒業判定会議において認定されるが、各科目の修得単位数を合計して別途定める卒業に必要な修得単位数を満たしたものに対し、卒業の判定をおこなう。卒業は学校長がこれを認定する。</p> <p>修得単位数等詳細については、学生生活の手引きに記載し、また、HPに公表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>HPにて公表 「情報公開の入口ページ」 https://www.ito.ac.jp/about/#a_info</p> <p>「情報公開資料」内11～12ページ参照 https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_disclosure_r04.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPにて公表 「情報公開の入口ページ」 https://www.ito.ac.jp/about/#a_info https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/boardstatement_r03.pdf
収支計算書又は損益計算書	同 上
財産目録	同 上
事業報告書	同 上
監事による監査報告（書）	同 上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門	フラワービジネス学科 ブライダルフラワーコース (2年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,905 単位時間/単位	916 単位時間/単位	1,076 単位時間/単位	240 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数 (学科総計)		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		30人	0人	4人	33人	37人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 （概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照

卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 随時、担任教員による個別面談、進路指導を行い、各個人に合った学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				令和3年度実績
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
17人 (100%)	0人 (0%)	16人 (94.1%)	1人 (5.9%)	
(主な就職、業界等) 株式会社花弘、株式会社ハマフローリスト、株式会社ユー花園 他				
(就職指導内容) ビジネスマナーの授業内で履歴書や応募書類の書き方、面接での注意点を学生全体に指導するとともに、マンツーマンでの個別指導も行う。				
(主な学修成果(資格・検定等)) 園芸装飾技能士3級、フラワー装飾技能士3級、2級、カラーコーディネータースタンダードクラス、リテールマーケティング3級など、資格取得のための講座を開いている資格については毎年高い合格率を上げている。また、毎年数名の学生が、技能五輪全国大会フラワー装飾部門の東京都代表に選ばれている。				
(備考) (任意記載事項)				

中途退学の現状		令和3年度実績
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	1人	3.6%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の低下1名		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任教員による個別面談、進路指導を行い、各個人に合った学修支援を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門	フラワービジネス学科 フラワーデザインコース (2年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,905 単位時間/単位	931 単位時間/単位	1,061 単位時間/単位	240 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数 (学科総計)		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		45人	0人	4人	38人	42人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 随時、担任教員による個別面談、進路指導を行い、各個人に合った学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			令和3年度実績
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	9人 (81.8%)	2人 (18.2%)
(主な就職、業界等) 株式会社ゴトウ花店、株式会社花門フラワーゲート、株式会社渋谷園芸、他			
(就職指導内容) ビジネスマナーの授業内で履歴書や応募書類の書き方、面接での注意点を学生全体に指導するとともに、マンツーマンでの個別指導も行う。			

<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>園芸装飾技能士3級、フラワー装飾技能士3級、2級、カラーコーディネータースタンダードクラス、リテールマーケティング3級など、資格取得のための講座を開いている資格については毎年高い合格率を上げている。また、毎年数名の学生が、技能五輪全国大会フラワー装飾部門の東京都代表に選ばれている。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		令和3年度実績
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	4人	10.8%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更1名、 体調不良2名、 就職1名</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>随時、担任教員による個別面談、進路指導を行い、各個人に合った学修支援を行っている。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	コース名	入学金	授業料 (年間)	その他	合計	備考
フラワー ビジネス学科 (2年制) 1年次	ブライダル フラワーコース	100,000円	950,000円	319,000円	1,369,000円	「その他」には実験・実習費と教材費が含まれる。
	フラワー デザインコース	100,000円	950,000円	313,000円	1,363,000円	「その他」には実験・実習費と教材費が含まれる。
<p>修学支援(任意記載事項)</p> <p><学園独自の奨学金制度></p> <p>○特別奨学金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の資格取得の状況に応じて給付するもの ・高等学校在学中の全国大会での受賞や出場に応じて給付するもの ・A0事前学習のレポート、常識テストの結果に応じて給付するもの <p>○卒業生の紹介によって入学したものは入学金を減免する</p> <p>○2年次進級時に一般常識・専門知識の試験結果に応じて給付するもの</p> <p><公的な奨学金></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構奨学金への申請補助 						

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP 公開している 「情報公開の入口ページ」 https://www.ito.ac.jp/about/#a_info https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_evaluationself_assessment_r03.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校が実施する自己点検・自己評価について、学校外の関係者による評価を行うことにより、客観性、透明性を高めることや学校運営の改善を図ること等を目的とする。委員会は年 1 回開催し、その結果については教職員が情報共有するとともに、充足している点はさらなる充実を図り、不足している、もしくは改善が必要な点については、教職員会議等で検討の上、充足、改善を図り、授業計画や事業計画に反映していく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
業界団体 元事務局長	2022. 4. 1～2024. 3. 31	業界関係者
業界団体 会員 テクノ・ホルティ園芸専門学校講師	2022. 4. 1～2024. 3. 31	業界関係者
園芸用薬品類製造販売会社 嘱託社員	2022. 4. 1～2024. 3. 31	企業
大手生花店 勤務	2022. 4. 1～2024. 3. 31	本校卒業生
大手生花店 勤務	2022. 4. 1～2024. 3. 31	本校卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP 公開している 「情報公開の入口ページ」 https://www.ito.ac.jp/about/#a_info https://www.ito.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/t_evaluationself_assesment_r03.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ito.ac.jp/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		一人	一人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	一人	一人	
	第Ⅱ区分	0人	一人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				一人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）				
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。